

No.16

2003. 9. 1

地球の木

地球上のすべての人たちと共に生きたい

■発行 特定非営利活動法人
地球の木 理事会
■発行責任 丸谷士都子
■編集 広報部
■事務局 〒231-0032
横浜市中区不老町1-3-3
フェニックス関内2F
TEL 045-228-1575
FAX 045-228-1578
E-Mail: CZR10753@nifty.ne.jp
http://homepage1.nifty.com/EarthTree

CONTENTS

- 「参加」が今年のキーワード ●パラゴンバナナに希望を託す ●支援地から ●シンプルライフキャンペーン ●マジカルバナナ予約受付中！
●大人もわくわくワークショップ ●ランチ連絡会ができました ●事務局の新スタッフ紹介 ●活動日誌 ●INFORMATION

「参加」が今年のキーワード

理事長 丸谷士都子



「参加」ってなに？

「誰の参加なのか？」参加型手法を学ぶワークショップで、カマルさんの口から何度もこのことばが発せられました。参加者のひとりが村長さんになって机の上に偉そうに座ります。村長さんの後ろに座り、耳打ちする人物、その横にうちわであおぐ人がいます。右に先生、お坊さん、商人、左に裕福な農民、中間層の農民。貧しい農民は列の最後尾で頭を垂れていて発言もできません。こんな村の構図の中で、誰の問題解決であるべきなのか？ネパールの村でも、日本の学校や組織でも似通った状況があります。このワークショップでは、自ら持つよいところを利用し、将来の夢を計画にしていける過程を学びました。（p6に関連記事がのっています。）

時代と共に変わる地球の木、でも理念は変わらず

さて、今年の総会では、出席者からたくさんの質問や意見が出ました。よりよい地球の木にするための積極的な参加があり、嬉しいことです。話し合いをさらに深めるため、7月5日に「もっと話そう！地球の木」を開きました。事務所の丸テーブルを囲んだのは15人の会員。活発な意見の交換がなされました。

「地球の木は、1ヶ月500円を出して南の人のことを考えよう、自分の生活を見直そう、仲間を増やそう、ということで始まった運動だったはず。それが地域や会員にわかりにくい活動に変わってしまった」という意見がありました。また、「会員拡大の目標が明記されていない。10年たつと地球の木はなくなってしまうのだろうか？」と将来を危惧する声もありました。

設立当時の理念は全く変わっていません。ところが、世の中の動きは変わってきています。国際協力を行うNGO団体が増え、不況も手伝って会員を増やすことは簡単なことではありません。しかし、会員は活動の大きな原動力です。これからの3年間は地域の活動を活性化させることに力を入れて会員を増やしていく計画です。そのために組織の変革も行いました。理事や支援プロジェクトチームがランチ活動をサポートする体制を作りました。会費以外の収入源を募金キャンペーンや助成金、収益事業などから得ていくことも並行して行っています。拡大目標を掲げるより、まずは「行動」から始めようとしているのです。地域での活動にぜひ参加して下さい。

慎重に検討しながら継続-KOREA こどもキャンペーン

北朝鮮人道支援についても、たくさんの質問が出ました。「地球の木とKOREAこどもキャンペーンの関係は？」「緊急支援をいつまで続けるの？」「人道的に支援したい気持ちは分かるが、本当に届くの？」などが主なものです。

「KOREAこどもキャンペーン」は「地球の木」「日本国際ボランティアセンター」「アユス仏教国際協力ネットワーク」の3つのNGOが行っているキャンペーンです。目的は「朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の子どもたちに人道支援を行い、市民としての立場から北東アジアの平和構築に寄与すること」です。支援金は指定募金で集まった金額だけが「KOREAこどもキャンペーン」に送られます。但し、2001年度は調査費を、2002年度は太陽光パネルの費用の一部を地球の木の予算から支出しました。

北朝鮮への人道支援は今年で7年目ですが、毎年理事会で話し合いながら継続してきました。特に昨年9月の小泉総理の訪朝後は、世論の高まりを受け、支援の継続の是非について十分な協議を行いました。世論の強い反感に対し不安を感じながらも、こんな時だからこそ必要である、限られた情報しか入らない中、支援先の子どものたちや市民の日常生活を知らせていくのもNGOの役割のひとつである、NGOが入ることで現地にも外の情報が入る利点などがあげられました。現地に届いていることを必ず確認できる方法で支援を行うこと、国内外のネットワークを最大限に利用しながら、より確実な情報を入手し、これまで以上に慎重に進めるという方針も確認されました。

大きな社会問題になっているにもかかわらず、理事会からの報告が十分でなかったことを反省し、今後は地域での勉強会など、会員と意見の交換ができるような機会を積極的に作っていきます。

会報にもっとみんなの声を

会報について、会員の声をもっと取り入れるようにとの意見がありました。これからはランチの活動や投書のコーナーを作って「参加型」の会報を心がけていきたいと思います。皆様のさらに活発な地域活動、ご意見を楽しみにしております。



ロベルトさん一家とバナナ畑



フィリピン・ネグロス島現地調査報告 balanゴンバナナに希望を託す

地球の木の開発教育教材「マジカルバナナ」が世に出
てから3年半。改訂版作成のため、ネグロス島のバナナ
生産者の近況取材しました。

3カ所の balanゴンバナナ生産地を訪問しました。裏
山に育つバナナを日本に輸出する事業は、1980年代に起
こった砂糖価格の暴落がきっかけでした。砂糖きびブラ
ンテーションで働く労働者の大量失業と飢餓が起こり、
その支援から始まりました。元砂糖きび労働者が自立し
た農業を行っていくためにどんな試みが行われているのか？
自然栽培のバナナを日本に輸出することがネグロスの人
たちにとってどんな意味があるのか？生活はどう変わっ
たのか？それぞれの村の状況をお知らせします。

ユボ村

～バンチトップ病でバナナは全滅～

ユボ村はバコロド市の南東、カンラオン火山のふもと
にあります。村へ向かう途中に、広大なマンゴープラン
テーションが続きます。政治への絶大な影響力を持つ大
財閥コファンコー族の所有地です。やがて道はがたがたに。
バナナもこんな道をはるばる運ばれて日本に来るのです。

ユボ村は緑に囲まれ、川が流れる自然豊かな村。中央
に広場があり、その横に村役場。まわりには診療所、保
育所、サリサリストア（コンビニのミニミニ版）が並ん
でいます。ここは最初にバナナの輸出に取り組んだ地域
のひとつです。ところが、バナナが育っているはずの山
の斜面には、バナナは1本もありません。

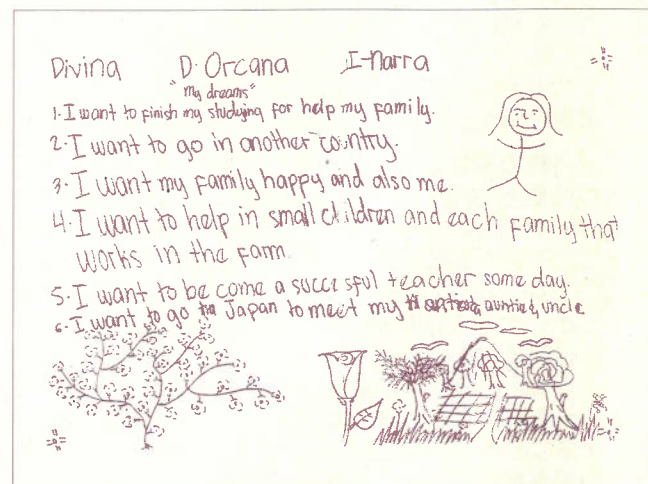
夜、村長のレンバートさんとヴェルマさん他2人の女
性たちに話を聞きました。日本へのバナナ出荷は1989年
から。安定した価格で、定期的に現金が入るので、その
収入でとうもろこし、しょうがなどの種を買いました。
生活が安定し、食事もあり、子どもたちを学校にやるこ
とでもできました。

生活に余裕ができ、 balanゴン生産者組合（BGA）の
活動も活発に行われました。セミナーは100%の出席率。
組織も強くなりました。

ところが、1992年ごろから、ウイルスによるバナナの
病気、バンチトップ病が広まり始めました。BGAの地域
では多くの村がこの病気による被害を受け、バナナの出
荷は極端に減りました。

年中出荷でき、2週間ごとに現金収入が得られるバナ
ナを失ってしまったことがいかに大きな打撃であるかは
想像できます。生活が苦しくなり、子どもを学校にやる
ことができなくなった家庭、仕事を探しに都会に出る人
も増えました。

バナナのみに頼るのでなく、多種の作物を植えること
の重要さがわかってきました。徐々に回復してきた村も
あり、村の人たちはバナナへの夢は捨ててはいませ
。BGAの結束力に期待がかかります。



ディビナさん（14才）の夢とユボ村の景色

バナナ基礎データ

熱帯地域原産の多年草で、植え付けから12ヶ月くら
いで実を付ける。成長にばらつきがあり、一年を通して
収穫できる。

根元に生える子株を分けて植え付けて殖やす。最近
は、病害を避けるため、成長点培養法による無病繁殖苗が用
いられ始めた。

果実はカロリーが高く、たんぱく質、カリウムが多く
含まれる。ビタミンA、B、Cもバランスよく豊富に含ま
れる。

日本が輸入している果物の輸入量（重さ）

1位	バナナ	55.1%
2位	グレープフルーツ	16.8%
3位	パイナップル	7.2%

（2002年財務省貿易統計）



世界のバナナの生産量

1位	インド	1,390万トン
2位	エクアドル	682万トン
3位	ブラジル	634万トン
4位	中国・台湾	481万トン
5位	フィリピン	416万トン

（2000年FAO Year Book）

日本のバナナ輸入国

1位	フィリピン	79.4%
2位	エクアドル	16.8%
3位	台湾	2.7%

（2002年財務省貿易統計）

1962年 バナナの輸入が自由化される。
1969年 フィリピン産のバナナが日本に輸入され始めた。
1973年 フィリピン産のバナナが1位となる。



ナギスロッド村

～砂糖きび労働者がバナナに挑戦～

バコロド市の西にナギスロッド村があります。ここは
砂糖きび農園で働く人たちが闘争を経て土地の権利を手
に入れた地域です。村の人たちは結束が固く、女性たち
も仲良し。手作りのごちそうでもてなしてくれました。
バナナの花で作ったサラダ、もち米と黒砂糖を混ぜたラ
イスケーキ、ココナツジュースなどなど。

イチヨイさんの家に案内されました。イチヨイさん
がバナナに取り組んだのは2年前。元とうもろこし畑にバ
ナナの苗を植えました。研修を受けた時、単一作物でなく、
多様な作物を植えることを奨励され、有機栽培にも興味
を持ち、バナナを始めました。ここではバナナリニュー
アル計画に基づき、病害を避けるため、実験農場で栽培
された苗を植え、袋掛けを行う方法で育てています。

この土地の問題は、水不足。土地も決して肥沃ではあ
りません。今は3家族が取り組んでいます。他にも始め
たい人がたくさんいます。

ギンバラオン村

～誇りをもって改良バナナに取り組む～

さらに北上した山の中にギンバラオン村があります。
ロベルトさんのバナナ畑を見せてもらいました。谷間の
急斜面にバナナが植わっています。政府から、耕作する
ことを条件に25年の約束で借りている畑です。10年以上
バナナを出荷していますが、より品質の高いバナナを作
るため、袋掛け、タグづけ（収穫時期の目安にするテー
プを付ける作業）下草刈りを行うようになりました。急
斜面にはしごをかけ、バナナの実に袋をかけるところを
を見せてもらいました。

妻のジーナさんはバナナのパッキングセンターで働い
ています。サリサリストアも経営。母のアーリングさんも、

技術指導や買い付けをしています。子どもは4人。将来
の夢は子どもたち全員が大学に行って資格を取ること。

ロベルトさんの話では、砂糖きびは年1回の収穫しか
なく、肥料などの経費が必要で、時期によっては人を雇
わなくてはならないが、バナナは週に2、3回の手入れで
よいので、仕事がきつくない。品質のよいバナナの作り
方を学び、誇りを持って取り組んでいる姿が印象的でした。

長く続いた植民地支配、大土地所有制度の影響が色濃
く残るフィリピンで、農民たちの最大の問題は自分たちの
土地を持つことです。地主に有利な条件にもかかわらず農
地改革はなかなか進んでいません。しかも、土地の権利を
得たとしても、長い間砂糖きび労働者として働いてきた人
たちが自ら農家を経営することは難しいのです。一方で、
農民の自立のための研修や技術指導を行うNGO活動もた
くさん行われています。夢を抱いて働く人たちに希望が見
えました。（丸谷士都子）



マジカルバナナのカードゲームに挑戦するバナナ生産者

地球の木では、日本ネグロスキャンペーン委員会を
通して、砂糖きび労働者などに自立への農業研修を
行っているツブラン農場を支援しています。

支援地から

ラオスから

ナボー村の1年

日本の1年は、春夏秋冬の四季で彩られるが、ラオスでは雨季（5～10月）と乾季（11～4月）の二季に分かれている。村人は天水の恵みに支えられながら生活しているので、その時々で違う顔を見せる。ラオス中部のカムアン県にある、ここナボー村の一年を見てみよう。

【雨季】

田んぼの真ん中に小さな祠を建て、雨の恵みと豊作を祈ったら、いよいよ田植えの開始。少年が自分の身体よりも大きい水牛を巧みに操りながら土を練り、みんなで力をあわせて手際よく苗が植えられる。

田植えを終え、一息つけるのも束の間。この時期は米不足の時期でもあるので、林産物を取りに森に入ったりする。特に雨が少ない年は害虫が発生しやすくなるため、おじいさんが心配そうに遠くの空を眺めていた。豊作への祈りに支えられ、稲はその旺盛な生命力で、ぐんぐん丈をのばし、そして小さな花を咲かせる。

【乾季】

乾季に入る頃、頭を垂れた稲穂が、金色の絨毯を敷き詰めたように広がる。みなで稲を刈り取り、収穫を祝う。枯れた草地となった田んぼには、時が止まったかのように、ゆったりと牛が草を食べている。その牛のフンが、次の稲作のための豊かな土壌を作り出す。

この時期は、畑仕事为主。乾季に入って水面が下がった小川沿いに、突然畑が現れる。川沿いには上流から運ばれてきた豊かな土壌があり、また水やり作業も楽だからだ。朝夕の水やりは、主に女性の仕事。口と手を際限なく動かしながら働く彼女らは、たくましいという形容詞がぴったり。

（JVCラオス・カムアン事務所 名村 孝行）



プロジェクト名 ●カムアン県 森林保全・自然農業・農村女性の自立支援

ネパールから

第2、第3のモデル村をめざせ！

2002年度は、極西部で5年間続けた識字教室を共産党マオイストと政府軍の戦闘の激化により中断せざるをえないという不測の事態が発生しました。最近ニルマラさんから来たメールによると「状態は大幅改善された」とあります。しかし、和平交渉再開の気運が高まる中、依然として政府軍とマオイストの間で銃撃戦があったというニュースも伝えられています。

SOARSは、識字教室の再開を目指して調整を行なっているそうです。前号でも触れたデブラニ（※1）の嫁いだボンカタ村で2クラス、元気な女性リーダー、ラクシュミの住むベラル村で3クラス、ニムディ村では、移住してきた元カマイヤ（※2）の女性を対象としたクラスも含めて3クラス。いずれも目標は識字率100パーセントです。野菜づくりトレーニングも家族の栄養改善や収入創出など、女性たちに大きなインパクトを与える。うで、今年も！』として欲しいという要望が出ています。あと一歩で完成というところで、やはり内戦のために放置されているコミュニティセンターも利用できるようにしなければ宝の持ち腐れです。

大勢の会員の皆様からの善意が寄せられた「デブラニ募金」は、ニルマラさんゆかりの地イマドール周辺の貧困地域の女性と小規模事業を始めたい人たちのグループ強化と活動促進のために使われました。また、親に経済力のない少女の自立のための奨学金としても使われています。選ばれたのは、バルパティ・マガラティ。靴職人のカースト出身で、この地域で中学を卒業してきた初めての少女です。いつも青少年クラブのミーティングで活発に意見を言う元気な少女です。第2のデブラニの出現が待たれます。（ネパールチーム 乳井 京子）

- ※1 識字教室を主席で卒業し、親戚の人々の支援を得て中学に通いながら、村の識字教室で女性たちに教えた。カレッジに進学したが、嫁ぎ先で家事との両立ができず、勉学を断念。昨年、女の子を出産。
- ※2 地主への借金がかさみ、農奴のような状態から抜け出ることができない債務労働者。カマイヤ解放令が出たが、自立は難しい。



バルパティ

●女性のための教育支援

カンボジアから

子どもたちを取り巻く環境

7月の選挙では、フン・セン首相率いる人民党が47%と高支持率を上げ、実力を見せ付けました。幾つかの暴力事件を除けば、概ね平穏な選挙だったと日本から行った選挙管理員の言葉です。5月の予定がタイ大使館への襲撃事件があったために7月に延期されたことで、田植えの時期と重なったり、洪水などで投票できない人々も多かったようです。また、選挙システムがまだ人々の間で十分に理解されず、登録の不備で投票が出来ない人々もいたようです。今回、有権者の80%が投票したと見られますが、前回に比べれば低下しています。

1993年のUNTAC（国連カンボジア暫定統治機構）主導による選挙からちょうど10年、カンボジア人にとって復興は成し得たのでしょうか。国連や日本政府などはカンボジアを国連による紛争解決・復興の成功例として評価していますが、タイ大使館襲撃事件などに見られるような、経済格差の広がり、汚職の蔓延など、問題は山積しています。

「るしな」のあるバットアンバン州周辺でも最近特に治安が悪くなり、在カンボジア日本大使館から「邦人被害強盗事件発生」との情報が出されました。「平和」の教育を受ける機会がなかった子どもたちにとって、良き前例となる大人がどれだけ存在するかが「鍵」を握っています。しかし子どもを取り巻く環境は改善されるには時間がかかりそうです。「るしな」でも二歩進み一歩後退といった繰り返しが続いています。

「チャイルド・ケア・センター」の子どもたちの成長を考慮し、「るしな」の松本氏が店を開いているシエムリアップヘンセンターを移築することを含め、今後の運営をるしなと共に真剣に協議している所です。（カンボジアチーム 横川 芳江）

なお、カンボジアに関係するNGO、市民、学者などの国際的ネットワークである「カンボジア市民フォーラム」では、この10年を振り返り、12月13日・14日にシンポジウムを開く予定です。

日 時：2003年12月13日(土)午後 分科会（保健、教育、ODAなど）
14日(日)午後 シンポジウム「カンボジアの経験から21世紀の「戦争」と「平和」を考える」
会 場：上智大学・図書館内講堂(予定)

●バットアンバン州のチャイルドケアセンター支援

シンプルライフ
キャンペーン

え!!シンプルなくらしが平和につながるの？

うちの電気代…減っています

去年の12月に、24年間使った冷蔵庫をノンフロン省エネタイプに買い換えました。“古いものを大事に壊れるまで使うのがまっとうな主婦”と信じてきた私。でも、このたび去年と今年の1月から6月までの電気代を比べてみてびっくり。毎月、平均で1,500円強減っていました。まさに我が家は、「有効な電気製品の買い換えで楽しく省エネ」を果たしたんですネ。

あなたも体験をお寄せください。（横浜市旭区 斉藤 和子）



マジカルバナナ改訂版 予約受付中！！

地球の木オリジナル開発教育教材「マジカルバナナ」は1999年の発売以来、1000部を完売いたしました。多くの貴重な現場の声を生かして、更に楽しく、使いやすい改訂版を制作中です。ゲーム性を高めたカードゲームや豊富な写真資料、最新のデータ等が入っています。子どもから大人まで以前にも増して多くの方々にバナナから見えてくる世界を体験してもらえます。

小・中・高校の総合学習で、地域の社会教育で、また子ども会やご家庭でも使ってみませんか。

完成は11月の予定です。がながわ民際協力基金の助成を受けて、価格も一部1,200円に値下げしました。申し込みは事務局まで。



大人もわくわくワークショップ

Let's Learn Together! みんなで一緒に学ぼう!

7月19日(土) 20日(日)の両日、JICA横浜国際センターの協賛のもと「カマルさんの参加型ワークショップ」を開催しました。カマル・フィヤルさんは、ネパールの最も貧しい村々で村人たちが主体となってよりよい村づくりをするお手伝いをしている方で、日本でも有名な「名ファシリテーター」です。カマルさんの「参加型」アプローチを地球の木のランチやチームの人々、様々な市民活動をしている人たちと共に学ぼうと、広く呼びかけました。

ファシリテーター(進行役)は、教師のように教えることはしません。参加者が潜在的にもっている資質や知恵、経験などが価値をもっていることに気づかせ、コミュニティ(地域社会や団体、学校など)のもつ様々なリソース(資源)を再認識し、自分たちの力で問題解決をする手助けをするのです。

1日目は、「参加」とは何か、誰の参加なのか、ファシリテーターとリーダーの違い、社会構造を理解した上での信頼関係の築き方などをロールプレイをしたり、ネパールの人たちの映像を見たりしながら学んでいきました。図や表を作って現状を視覚的に理解する手法も体験しました。

2日目は、中華街、寿町を歩きながら、五感を使って観察し、そこに住む人々と話をして、地域の「いいところ」やリソース(資源)を探し、マップをつくりました。そして、地域のもつ様々なリソースを活かしたよりよい町づくりを考えました。(乳井京子)



村の社会構造を疑似体験

参加者の感想

ファシリテーターの意味や手法を楽しく学べました。言葉で伝えることが難しい問題もワークショップという手法で共通の認識をもてることがわかり、とても感動しました。地域の国際交流や活動に十分生かしていけると思います。 金澤ゆう子(地球の木なんぶ)

具体的で分かりやすいワークショップでした。2日目のフィールドワークがきちんとプランニングまで、ながっていて完結している点もよかったです。私たちグループは開発教育の普及を目指していますが、テーマを町づくり、地域おこしに広げてみたいと思っています。そうすることで主体的に社会にかかわるというコンセプトが多くの人に理解してもらえるのではと思いました。 水島洋子(開発教育FUN CLUB)

私の場合は高等学校の地理教育への応用が課題となっており、8月末に開かれる日本地理教育学会における発表に反映させたいと考えています。これまで地球の木の活動についてなんとなく聞いていましたが、スタッフの献身的な協力体制に感動しました。

梅村松秀(高校教諭)



よい人間関係を作ることがすべての基本



ランチ連絡会ができました

「地域と地域を結ぶ国際協力」をうたう地球の木は、地域活動が基本です。ランチが楽しく、生き生きと活動できるよう、プロジェクトの最新情報、会員同士の交流の場として、毎月県内1,2ヶ所で開きます。誰でも参加できます。8月には生田のカンボジア料理店で懇親会、9月2日(横浜)、3日(藤沢)には連絡会が開かれます。ランチの企画には、理事が積極的に応援する体制を作っています。プロジェクトの報告会、支援地の文化紹介、料理講習会、講座など地域で見える活動を作り出し、仲間を増やしましょう。

ランチの情報もどんどん会報に載せていきます。情報をお寄せください。尚、ランチ連絡会の日程については、ホームページまたは事務局までお問い合わせください。

事務局の新スタッフ紹介

今年6月、事務局のスタッフが交代しました。経験豊かな事務局長、そして若い二人のスタッフたちです。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、前年度まで長年にわたり事務局として地球の木を支えてくださった前事務局長飯田信子さん、戸代澤直子さん、対馬芳子さん、高村洋子さん、ほんとうにありがとうございました。

事務局長 筒井 由紀子さん (つつい ゆきこ)



地球の木歴8年目になりました。とうぶの代表や翻訳本「母のキッチンガーデンから」の出版などを担当

してきました。

98年に東京へ引っ越してからは、日本国際ボランティアセンター（JVC）内にある「KOREAこどもキャンペーン」の事務局を手伝っています。JVCでは多くのことを学ぶことができました。この経験や国内外のNGOとのネットワークをいかし、開かれた事務局を作っていきたいと思います。

会計担当 朝夷 佳光さん (あさいな よしみつ)



千葉県の学校で英語の教師を一昨年までしていました。しかし小学生の頃から思っていたNPOで営利目的ではなく、人のために働きたいという願いを今回、地球の木でかなえることができました。今までの多くの出会いや経験を、これからの私のエネルギー源としてうまく活かせたらと思います。

会員管理担当 生川 理佐さん (なるかわ りさ)



今年の3月まで北海道にある酪農学園大学で学んでいました。大学時代に2回カンボジアを訪れる機会に恵まれ、その際地球の木が支援しているチャイルドケアセンターを訪問しました。社会人一年生、まだまだ未熟者ではありますが、皆さまと共に地球の木の支えとなっていけるよう、努力していく次第です。

活動日誌（6月～8月抜粋）

- 6月 4日 横浜市平楽中学校 国際学習（ネパールワークショップ）
- 9日 るしな帰国報告会（カンボジア）
- 15日 鎌倉女学院高校国際セミナー（ネパールワークショップ）
- 17日～22日 マジカルバナナ現地調査（フィリピン）
- 28日 マジカルバナナ学習会：なんぶ（地球市民プラザ）
- 7月 5日 「もっと話そう地球の木」（事務所）
- 9日～16日 「南北コリアと日本のともだち展」（東京都児童会館）
- 16日 横浜市市場中学校 国際理解教室（マジカルバナナ、ネパール）
- 19日、20日 「Let's Learn Together!」 カマル・ワークショップ
- 24日 ラオス現地スタッフ報告会（県民サポートセンター）
- 26日 わくわくワークショップ（横浜国際交流ラウンジ）
- 28日～8月3日 フィリピンチーム現地調査
- 30日 保土ヶ谷区小学校教員対象学習会
- 8月 6日 ブランチ交流会（カンボジアレストラン「チガン」）
- 18日 ネパール報告会 Weショップとつか
- 23日 フィリピン調査報告会（事務所）
- 24日 マジカルバナナ親子ワークショップ（港南国際交流ラウンジ）
- つるみオープンカフェ（活動紹介、グッズ販売）
- Peace Voices Concert「平和工房」パネル展示
(横浜市開港記念会館)

募金・寄付を ありがとうございました

●エスペランサ募金●（敬称略）

水野はる美	原田悦子
後藤淳子	戸叶悦子
上野ひろみ	青木和枝子
園田久美子	吉田藍子
綾部代美	阿部忍
丸山みゆぎ	堀川尚美子
栗原照生	水野郁子
三宅なほみ	長澤紀子
松本恩	久保田宏介
名古屋真子	山本健介
若宮静江	倉内富美子
前田かな子	塚田礼子
向井しづ	小泉啓子
伊丹裕子	浅野淳子
井上喜美子	田中万里子

（4月以降／合計金額99,000円）

●寄付金●（敬称略）

神馬純江	ウィルソン・ハザー
木本秀一	吉澤佳子
乳井勇	安田恵子
戸代澤直子	阿部久美子
エリクソンけい子	乳井豊
下田利明	泉芳仁
田端弥生	平楽中学校の生徒の皆様

（4月以降／合計金額57,400円）

BACK

SPROUT
平和
PEACE
পাখি
PAGHIDAET
စိမ်းစိုက်

Tシャツを着て 「平和」を アピールしよう！

FRONT



地球の木の仲間たちが地球の木サポーターズ
“SPROUT”（「新芽」の意）を結成し、「平
和Tシャツ」を売り出しました。

今、世界で一番望まれているのは平和。
「平和」の文字を、地球の木の支援地の言葉と日
本語、英語でプリントしたおしゃれなTシャツで
す。一枚のTシャツが海の向こうの人々の人生を
変えます。

あなたが一枚Tシャツを買うと、カンボジアの
14人の子ども達が一日食べられます。

あなたが一枚Tシャツを買うと、ネパールの女
性が6ヶ月間読み書き教室に通えます。
あなたも一枚いかがですか？

サイズはS、M、Lの3種類、
色は白、ネイビーブルー、グレーの3色があります。
1枚 2,300円です。
お申し込みは事務局まで TEL.045-288-1575

有機農法いきいき体験 アジア、アフリカからの 留学生と共に

シンプルライフキャンペーン
企画第3弾！

日 程 11月3日(月)～5日(水)
場 所 アジア学院(栃木県西那須野)
費 用 15,000円(宿泊費、食事5回付き)
*現地集合(行き方は別途ご案内します)
*定員20名(先着順)
申し込みは、事務局まで 045-288-1575

地球の木出前講座

「インドネシア人妻の会」と交流(軽食付)

日本で暮らすインドネシア人女性たちとの交
流を通して、私たちの暮らしをみつめてみま
せんか

日 時 9月18日(木) 10:30～13:00
場 所 未定
主 催 横浜南部生活クラブ南コモンズ 六南クラブ
問い合わせ先 松村(045-712-4661)

地球の木連続講座「私たちの身近な森と農業」

第1回	第2回
黒川の森を歩こう	自然農業の目指すもの
日 時 9月28日(日)	10月15日(水)
場 所 川崎市麻生区	地球の木事務所
講 師 市川 巧	朝夷佳光
参加費 1,000円	500円
主 催 ラオスチーム	申し込みは、事務局まで

地球の木とは、

地球上のすべての人々が自然と共存し、
人が人らしくあたりまえに生きていくこと
が出来るように、地域と地域を結ぶ国際協
力活動を行ない、相互理解を深める社会教
育活動を通して、お互いの人権を尊重し、
それぞれが自立した生き方を創造すること
を目的としています。

秋のイベント紹介

●国際協力フェスティバル2003

日 時 10月4日(土) 5日(日)
場 所 日比谷公園

●横浜国際協力まつり2003

日 時 10月11日(土) 11:00～17:00
12日(日) 11:00～16:00
場 所 産業貿易センタービル
横浜市中区山下町2

セミナー 「えっ？シンプルな暮らしが平和
につながるの？」

日 時 10月11日(土) 15:00～15:50

●フォーラムまつり

日 時 10月19日(日) 9:30～16:00
場 所 横浜女性フォーラム(戸塚)

●「国際協力」から「共生」へ シャプラニールのネパール駐在員、 岡山さんと話そう(ネパールカレー付)

日 時 10月23日(木) 10:30～13:30
場 所 地球の木事務所
会 費 700円
申し込みは、事務局まで 045-288-1575

●磯子区国際交流フェスティバル

一味ちがうネパールカレーとチャー、アジア
のグッズも販売
日 時 10月18日(土) 10:00～15:00
場 所 磯子区役所中庭(JR磯子駅)

●「自力整体」一日体験 自分の身体は自分で整えよう！

日 時 9月29日(月) 14:00～16:00
場 所 平沼記念レストハウス
(横浜文化体育館敷地内)

講 師 鈴木修子
申し込みは、事務局まで

ボランティアも歓迎！

事務局よりお願い

- 転居される場合は新しいご住所を必ずご連絡下さい。
- 会費の自動引き落としをご希望の方はご連絡下さい。